

東濃区大会への御来場

ありがとうございました！



7月22日(木)・23日(金)に、瑞浪市総合文化センターにて今年度地区大会が実施されました。本校は22日17時40分からの上演、今年も大勢の方にご来場いただき、心より御礼申し上げます。県大会出場はなりませんでしたが、よく頑張ってきた3年生がついに一度も県大会の舞台を踏むことができなかったのは、顧問としてとても残念なことです。

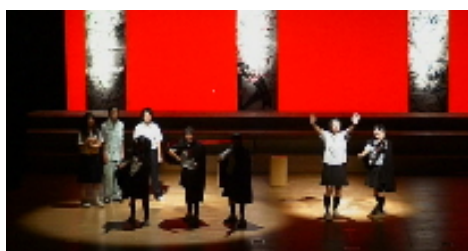
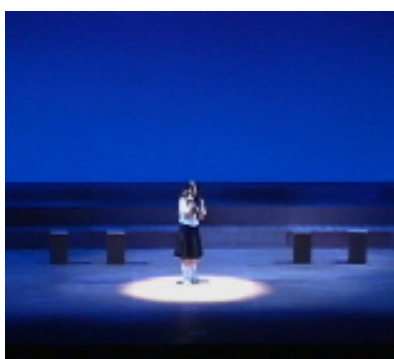
HPの更新が大変遅れましたが、この夏を振り返ってみます。



顧問の半(?) 転勤

春の異動で旧顧問が大学院での研修に行くことになった4月。今年の3年生は自分たちで芝居を作っていこうとするポテンシャルが高い学年です。春の合同公演も生徒演出によって上演まで漕ぎ着けた実績から、あまり心配はしませんでした。

さらに、誰も次の持ち手がないだろうと思われた顧問でしたが、奇跡的に「是非演劇部を持ちたい」という転任者が現れ、新しい息吹が吹き込まれました。安心しながら、旧顧問は瑞浪高校を後にしました。



新入生加入、男子が2名に！

今年も個性豊かな新入部員を迎えることができました。11月現在で5名、うち1名は男子で、3年生の1名と併せて遂に複数の男子を擁することとなりました。目端の利く子の多いメンバーで、準備に際しても自分が動こうとする気持ちが強く、夏に向けての勢いがありました。



脚本選びは紛糾

例年通り、旧顧問は脚本を2本提示しました。1本はかねてから「瑞浪高校生活福祉科をイメージした舞台が作りたい」という思いを形にした魑魅魍魎の出てくる伝奇物、1本は3年生の明るいキャラを想定した演劇部のコメディ。スタッフ的な準備が楽で、今までのノウハウが活かせるのは後者かなあと顧問が思うのに反し、すったもんだの挙げ句、部員は前者の難しい作品を選択しました。

この脚本「擦り切れた縫い針を高く掲げて」は、大会の楽屋講評で、審査員が「事前に読んで『こんなもん、どうやって舞台にするつもりだ?』と思った。」と言われました。「無謀な挑戦」とまで評された芝居がここから始まりました。



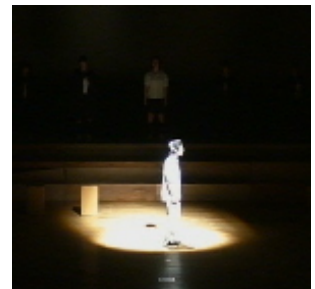
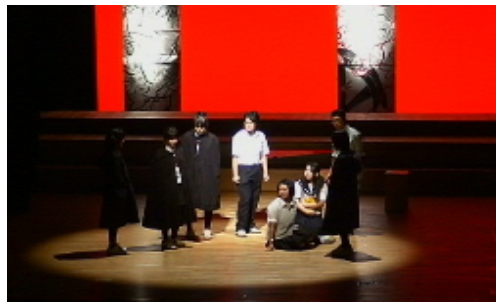
その後も脚本は二転三転

作品は決まりましたが、部員が大量に出したダメを修正しても、まだ芝居として十分成立しない本作を、稽古を進めつつ、どんどん改訂しました。冒頭のシーンに新顧問が明かるい場面を設定してくれたため、なんとか全体像が出来て、初稿とはかなり改変された決定稿となりました。それでもラスト近くの百鬼夜行シーンはかなり直前になってやっと演出が決まるという状態でした。



要領よく準備は進む。それでも時間がない。

旧顧問が時々顔を出すたびに、「〇〇はどうなった？」と聞くと、たいがい生徒だけで練習計画も音響も衣装もその他諸々が出来上がっていました。さすが要領を心得た3年生。ただ、作るべき物の量が大変である上、照明に凝り過ぎたことや諸事情が重なり、あっという間に追い込まれました。余裕を持って本番を迎えるという夢が実現するのはいつの日でしょうか。



なんとか本番に漕ぎ着ける

生徒は暑い中本当によく頑張り、直前の通し稽古では「まあまあ面白いんじゃないだろうか」と思うまでに仕上げてきました。ただ、複雑な照明に加え、初めて行うことになった吊り物の操作など、舞台上でしか試せないことが今回は多数あったのが悩みの種でした。

そうした事情から、本番ではミスがいくつかありましたが、家庭クラブの女生徒がこの世の結界を縫うという奇妙極まりない世界を瑞浪の舞台に出現させることができました。「無謀な挑戦」と評した審査員も「好き」だと言ってくれました。感想のB紙にもびっしりと書き込まれており、部員一同感激しました。



真澄祭の上演を経て

恒例となった真澄祭での上演は、照明その他の舞台上の制約からかなりの演出改訂を強いられました。しかし、その分すっきりした仕上がりとなり、校内でも高評価を受けることができました。例年よりも多く上演時間をいただき、可能な限り大会の上演内容を見てもらえました。

なお、3年生は芝居への思い未だ絶ちがたく、この春に自主公演を画策している模様です。詳細が決まりましたら、このHPでもご紹介申し上げますが、よろしければ足を運んでみてください。



瑞浪高校文化部発表会が平成23年3月19日（土）に予定されています。演劇部は例年、午後一番の舞台に立ちます。よろしければ、お時間をいただくと幸いです。

